

博物館だより

第1号

発行 長野市立博物館 〒381-11
 長野市小島田町八幡原史跡公園内
 電話 (0262) 84-9011・9012
 発行日 昭和57年8月1日
 印刷所 第一印刷株式会社



春日山神社太神楽

同神社芸能保存会（長野市七二会小坂）による実演。三番叟に始まり、獅子・阿部の安奈と進み、狂・間拍子と盛りあがる。

挨拶

館長 掛川一夫

長野市に博物館の創設を望む市民の声は、昨今の全国的な建設の波よりも古く、寄り寄り研究もされてきました。ようやく機が熟して宿願がかない、史跡公園の一角に開館の運びになったのは、昨年9月23日のことでした。入館者は10か月足らずで10万を越え、建物は日本建築学会賞を授かるなど、長野市の誇りが又一つふえたことは望外の幸いです。

内容は、事実で綴る長野市生い立ちの物語、とでも題すべきもので、市とその周辺の、自然とそこに展開された人の生活の諸断面が、自然・考古歴史・民俗に大別して、分りやすく配列されています。概説は200字以内、5年生が読めるようにするなど、教育的な配慮もこらされています。

展示物をただながめるだけでなく、視聴一体の説明や地震の体験、星の動きや物語など、動的な演示の多いのもこの館の特色です。

これからは地方の時代だ、といわれます。だが、地方に欠けているのは文化的な施設だ、といわれてもきました。そこに誕生したのがこの博物館です。

常設の展示物は知識や知恵の泉として直接的に役立ちますが、天工・人工ともに豊かなこの館の文化的雰囲気、人の心に及ぼすゆとりややすらぎなど、さまざまな無形の効用も無視することができません。講堂兼用の特別展示室や教室などの適正な利用を含めて、この博物館が、県都の文化の拠点として、地方文化の興隆に貢献できることを念願しています。

企画展

「長野の祭り」開催

6月26日から7月25日まで、「長野の祭り」展を実施しました。この企画展は身近な祭りをとりあげ、伝承文化としての歴史的及び現在の意味と特質を探る目的で開催し、各神社や氏子などに伝わる神宝・祭典用具などを展示したり、また市内外の各地域の特徴ある太神楽・踊りなどの実演も行われました。

展示資料は、四神像・
狛犬・奉納額・伎楽面
舞楽面・神楽面・象山
や駆山の幟・笠鉾・神
楽・みこし・獅子頭・
高張提燈・地口燈籠の
ほか松代城下の祭礼絵
巻など、約105点にのぼ
りました。

赤野田神社太神楽

幟を高くかかげて神を招き、依代をつくり神饌をささげ神と人とが飲食を共にしたのが村祭りの原形であり、そこで演じられた芸能が神楽の始まりとされています。各地に伝わる里神楽には、出雲神楽・伊勢神楽・獅子神楽などがあります。

獅子舞は伊勢神官などが伝え広めたもので、各地で形を変えて独創的なものになっています。

村祭りは神楽や獅子舞が主役ですが、町の祭りは山車・俄物・みこしなどが繰り出す華やかなものになりましたが、時代のすう勢と共に村祭り同様に忘れられてきています。

プラネタリウム

天体学習室（プラネタリウム）では、季節に合わせて年4回番組を変えています。

9月までは夏の星座で、天の川を舞台に繰り広げられる美しいドラマと、怪し気な尾を引いて突如現われる彗星に焦点をあてました。明るく輝く織姫と彦星のタナバタ伝説は広く

知られていますが、今回は同じコト座にまつわるオ

期間中毎日曜に実演

特色のある獅子舞や踊りが毎回盛況裏に熱演され、伝統的民俗芸能への高い関心を呼びました。

- 6月27日 富建千引神社神楽 妻科太神楽
7月4日 長谷太神楽 大豆島甚句
7月11日 春日山神社太神楽 赤野田神社太神楽
7月18日 大門踊 大田原太神楽
7月25日 犀川神社太神楽 芋井上ヶ屋太神楽



展示資料の一部

ルフェウスとエウリディケの哀愁に満ちたギリシ
神話をとりあげて、星座への親しみを図りました。

彗星の正体が不明だった昔は、不吉の前兆として嫌いましたが、科学的に解明されたその姿をわかり易く説明して、天体への理解と関心をより深めていただくよう努力しました。

ご案内

- ★日曜午後は混雑します。なるべく午前（9時半・11時投影開始）か土曜日においでください。
- ★団体入場は午前9時半からの部にしてください。
- ★8月には臨時投影もいたします。（行事計画参照）



夏の星座

第1回化石教室は 戸隠村で

採集と標本作りの化石教室が、信大教養部田中邦雄教授を講師に6月4・5両日開きました。

初日は午後から化石の講義及び地球の歴史のスライドがあり、翌日は戸隠村の協力により午前は同村積沢^{ツキサカ}で、ホタテ・ザルガイやサンドパイプなどの化石採集、午後は同村資料館の見学及び化石クリーニングの実習をし、参加者(大人16名を含み計39名)から圧倒的な好評を受けました。

◎ 私達はクラブ8人で参加させていただきました。大変よい機会を作って頂き有難うございました。子供達も多分初めての経験だったと思います。前から大変楽しみにしていましたがきつと満足した事でしょう。これをきっかけに長く興味が続くようにしたいと思っています。先生方の親切なご指導に深く感謝申し上げます。(吉田幸文)



化石のクリーニング

特別企画展

「はにわの世界」

— 9月23日～11月3日(日・祭日の翌日休館日) —

開館一周年記念事業として「はにわ」展を開催します。この展示ははにわの歴史一起源から各地域の隆盛時の主として形象埴輪—をみると同時に、はにわの古墳祭式を位置づけようとするものです。そして教科書では見たことがあるが、実物に接したことがないというのが現状だろうと思い、県下はもとより各地から代表的な埴輪を一堂に集めて公開するものです。展示資料総数約80点で、起源のはにわを吉備(岡山県)、5世紀代を畿内・東海、6世紀代を東国に求めました。

☆〇〇〇今年度行事予定〇〇〇☆

6月5日～8月29日(土・日曜のみ)

天体学習室「夏の星座」投影 8月3日～6日と

8月10日～13日は午後2時より1日1回のみ投影

7月17日(土)・8月10日(火) 天体教室

8月8日(日) 古墳教室

8月14日(土) 天体教室

9月4日～11月28日(土・日・祝日のみ)

天体学習室(プラネタリウム)「秋の星座」投影

9月23日～11月3日 企画展「埴輪の世界」

11月13日(土) 天体教室(第4回)

12月4日～2月27日(休館中を除く土・日・祝日のみ)

天体学習室「冬の星座」投影

12月19日(日) 注連飾り講習会

12月29日～1月3日・1月23日～1月29日 休館

2月6日・2月13日(日) 古文書教室

2月27日～3月31日 企画展「職人」

3月5日～(土・日・祝日のみ)

天体学習室「春の星座」投影 3月下旬は平日投影(1日1回)の予定

○休館日は毎週月曜日と祝日の翌日です。

展示の見どころ ①

ジオラマ「収穫の秋」

考古資料関係の展示で評判の良いものの一つで、弥生時代中期頃の収穫の様子を、絵と人形及び実物資料を組み合わせて表現しています。

舞台は篠ノ井塩崎遺跡群西側の後背湿地面です。遠くに飯綱山を望み、雲が尾を引く秋空のもとで、稲の収穫が始まっています。

このジオラマから次のことを注意して見て下さい。

- ① 前面に立つ女性が持っているものは何でしょうか。そして収穫のし方はどうでしょうか。
- ② 後方の女の子が抱える壺はどんな使い方をしたのでしょうか。
- ③ 稲の先を見て下さい。「赤米」と呼ばれる古い種類です。
- ④ 当時の集落の様子はどうでしょうか。等々。



稲わらの利用

稲わらは、弥生時代中期にこの地方に稲作が始められて以来、長い間私達の日常生活に深いつながりを持ちつづけてきました。

そこで米作りの1年の一環として稲わらの利用を用途別に展示を試みました。

信仰行事用・生産用・生活用・生産生活両用の四種に大別し、シメナワ・背負袋・草鞋・つぐら・蓑など26点の実物に、俵編み・むしろ編み・なわない・履物作りの器具を展示し、更にバックには、俵編み・なわない・草履作りの写真パネルを掲げ、わら工品のでき上る過程がわかるよう工夫しました。

雪国特有の深わらぐつ、爪掛草鞋など、地方色を見せるよう資料の選択に心がけました。

信玄・謙信の文書

もんじょ

川中島の戦いの経過にそって、感状・書状・願文・宛行状・禁制などを展示しました。特に両雄の願文は対称的で性格のちがいが端的に出ています。自己の勢力拡大に明け暮れる一方で、神仏の加護を祈っ

入館者10万人突破

7月21日午後来館した徳永昇さん（市内富竹）で10万人に達しました。（同日現在）

展示室入館者
100,063人
プラネタリウム
14,245人



記念品を受ける徳永さん

資料協力者

次の方々から資料を寄贈していただき、ありがと

うございました。（4月～6月 敬称略）

西沢喜昭	山岸 勝	小池万吉	岡沢民弥
宮下 功	青木京子	原山康永	倉島忠義
原山賢一	増田浩二	野本きみ	酒井佑治

あとがき

暑中お見舞申しあげます。梅雨が明けたとたんから、小草のそよぎにもしのびよる秋の気配をそこはかたなく感じさせられます。

第1号は事業を中心に編集しました。展示の見どころにさくつむりの紙面は、今後の連載にゆずりました。次号では研究調査にもふれ、晩秋頃にはお届けする予定です。